

なまろーど

The Name Road

ホームページアドレス
http://www.ranshokai.jpE-mailアドレス
info@ranshokai.jp発行所 高岡教区寺族青年会
住所 〒933-0878
高岡市東上関466
西本願寺高岡会館内
発行人 岡田 覚
編集者 広報部
発行日 2013年3月31日

巻頭言

鸞翔会
第十九代会長 岡田 覚

日頃より寺族青年会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。また各行事にて法要出勤や手話など活動の場をいただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。

最近ふと感じたことですが、他県や海外で自然災害が起こったときに月忌参りに行くと、「大変だね」とか「心配だね」という話題がよく出ます。以前なら「富山は何もなくよかった」とか「おかげさまで」などという言葉を目にするが多かったように思います。あくまで主観ですが、一昨年の東日本大震災以降、他者への意

識が変わってきているのではないのでしょうか。

ただ、東日本大震災に限って言えば、メディアで取り上げられることも少なくなり、風化の一途をたどりつつあります。昨年九月に開催した第十九回ダーナ・バザーは、「私たちに何ができるのか、改めて考えよう」という実行委員長の趣意のもとに進められました。被災地での復興支援活動の写真やパネルの展示などによって、参加者の心に少しでも被災地に思いを馳せてもらう「何か」を残すことが、販売収益とは別の大きな目的でありました。また、このバザーに合わせ、復興支援に尽力されている寺青OBの方にお話しいただくなど、寺青会員自身の意識も高めていきました。今年度は四月と九月の二度にわたって被災地に復興支援ボランティアを派遣していきますが、これからも続けていきたいと考えています。

意識を高めるという意味では、寺青連研や実践運動研修会も同様のことが言えます。今年度も継続的に身近なテーマを取り上げ、現在の自分を見つめ直すことに重点を置きました。若い会員も増えてきたので、楽しみながら研鑽するというのも一つの裏テーマでありました。会員一人ひとりの意識の底上げが、これからの寺族青年会の推進力になると思うので、そこが期待するところであり、課題でもあります。

来年度はフットサルサークルの設立を予定していますし、他にも新しい動きがあるかもしれませぬ。今後とも皆様の変わらぬご指導ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。最後に、第十九回ダーナ・バザーでは多大なご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

全国真宗青年のつどいIN四国大会

福田慶隆

去る七月二十八日(土)・二十九日(日)に二〇一二全国真宗青年の集い四国大会が香川県において開かれました。大会テーマは「絆」です。つなげていたそして「これからも」。「絆」を考えることを通して、自分たちのつながり(縁)を見つめ直すという大会でした。

大会前日二十七日(金)に高岡を出発し神戸にて前泊。翌朝会場となった丸亀市市民会館へと向かいました。一日目前半は釈徹宗氏・香山リカ氏・上田紀行氏・池坊由紀氏の四人によるスペシャルトークセッション。それぞれの立場から「絆」についてお話しされました。後半は三浦明利さんとふくい舞さんによるスペシャルライブ。オープン参加の会場は満席となり、「絆」に対する社会的関心の高さを感じました。

その後、会場をホテルへと移し夕食会・交流会。二日目はグルー

プディスカッションをし、各々の思いを語り合いました。

大会を通して心に残ったのは、上田先生の「絆」の質が問われているんだ」という言葉でした。戦前の日本においては、国という組織の「絆」のもとに、人々の反戦の心は抑えつけられ、とうとう戦争に突入してしまいました。「絆」といっても、人の心を抑えつけ縛りつける怖い「絆」だ。てあり得るのです。一方で「絆」には、人を活かす、人の心を元気にさせるあたたかい「絆」だってあります。

私たちが口にしてる「絆」はどんな「絆」なのでしょう。人のことを思っているふりをして、一人よがりな「絆」になってはいないか。自分たちだけが都合がいい「絆」になってはいないか。人の心を抑えつけるような「絆」にしてしまっていないか。人の心に元気を与えるようなあたたかい「絆」を自分たちは本当に語って

いるのだろうか。

「絆」という言葉が持つ美しい響きに安住してしまいがちな私に、「絆」そのもの、そして自分自身のあり方を問い直す、有意義な大会となりました。

実践運動研修会

北鹿渡 孝誓

高岡教区氷見東組、明厳寺 寺西良夫師をご講師にお招きし、寺族青年会実践運動研修会(布教にまつわるエトセトラ)に参加させて頂きました。

寺西先生は、年間二〇回も県内外の寺院や別院へ布教に行かれているそうです。私とは同じ組内で、布教を聴聞する機会があるのですが、ユーモアを混ぜながら、大変分かり易く仏教のお話をされます。

布教の入口段階で、寺西先生が心掛けていることは、日常の身近な仏教用語解説の話題等で関心を引き、まずはお寺に足を運んで下さった方を、退屈させないようにするという点が、参考になったと

思います。

また布教にあたり、教学の原点回帰をしていく必要性も研修でお話されました。親鸞聖人の言葉を、聖人が生きていた時代に一旦廻り、現代に置換えて話すと伝わりやすくなることも勉強になりました。



研修を通じて、今後の布教活動で活かしていきたいことは、仏教や親鸞聖人のみ教えの中で、自身が感動したことや心に響いたことを、体験や経験を交えながら自分の言葉で語ることを心掛けたいです。

お寺の役割として、「出遇い」、「学び」、「楽しみ」、「癒やし」の空間は、今も昔も変わらないものであると思います。布教活動を通じて、ご門徒の皆様と聞法の道を共に歩みながら、喜びを分かち合っていきたいと思えます。

第三回・四回

東日本大震災ボランティア

耳 浦 康 真

今年度は、東日本大震災ボランティアには二回行ってきました。一回目は四月一日から三日にかけて宮城県石巻市の黄金浜周辺の津波被害を受けた民家の内装の解体と片づけのお手伝いでした。慣れない作業で最初は不安でしたが、数日前から先に作業しておられたボランティアの方々と協力して作業をなんとか進めることができました。この時の作業していた民家の周りは津波に家が流され、空き地が多くなっている、残った民家もほとんどが壊れているのですが修理もされず、震災から一年経ったこの時でも、被災直後と変わらない状態で残っていて、とても寂しい風景でした。

二回目は九月二十三日から九月二十五日にかけて、寺青としては震災発生から第四回目の東日本大



震災ボランティアで、前回の石巻市の作業と同様で、仙台市若林区の民家の内装の解体と片づけでした。今回は前回に参加した寺青会員がほとんどだったので、作業もはかどった様に思います。この時作業した民家の周りでは新しい家が建っていたり、ビニールハウスで農作物が作られていたり、

少しづつ住人のみなさんの生活が戻っているのが感じられました。

前年度からには寺青で四回行っています、四回とも東北教区ボランティアセンターの東日本大震災ボランティアある仙台別院には、無料で宿泊させていただくなど、とてもお世話になり感謝しています。私は、この前年度からの東北震災ボランティアにはトータルで三回参加しましたが、震災発生から現在まで被災地復興は進んでいます、支援に行った石巻市や若林区や多くの震災による被災地に人が住めるようになるには、まだまだ時間がかかると実感しました。そして、一日でも早く被災地が復興できるには、国や行政の力も必要ですが、我々がこの東日本大震災や被災地を忘れず、震災発生から二年が経ったからといって他人事とせず、それぞれが震災発生から月日が経った今でも、何ができるかを考え、それを行動に移す事が大切だと思います。

寺青連研Ⅰ

これから私にできること

梁 瀬 聖 志

去る七月二十日、西本願寺高岡会館礼拝堂において寺青連研が開催されました。今回の寺青連研は第十九回ダーナ・バザーのテーマでもある「これから私にできること」について五位組組長の織田隆夫師からお話をさせていただきました。

東日本大震災発生直後から最近までの被災地の様子やご講師ご自身の活動のパネルの説明をしながら、放射能汚染や内部被ばく、除染などのことを中心にお話をしていただく中で、私たちが放射能や放射線に対して如何に無知であるか、また、無知が故に差別の温床となってしまうという現実が今すぐにあることを言われました。そして、だからこそ様々な情報に惑わされず、まず正確な情報や知識を得ることが必要であると言われました。

しかしながら、今も様々な被災地で苦しんでいる方々がおられ、懸命に活動されている方々がおられるにもかかわらず、震災から一年以上経過した現在、もうすでに風化が始まってしまっているのです。まさに、無知からくる関心の薄れが過去のことにしてしまっているのではないのでしょうか。

私自身、被災地での支援活動やボランティア活動にまだ参加したことはありませんが、この震災を風化させないためにも現在進行形で活動し続けることが大切なのではないかと思えます。

寺青連研Ⅱ 大越仏壇見学

岡 西 好 持

二回目となる寺青連研は、「普段お参りしているけれども、実はあまりよく知らない仏壇のことをもっと学んでみよう。」という趣旨から、仏壇には欠かせない金箔細工の体験学習や工房見学をやっておられる大越仏壇（高岡市福岡

町下老子）さんにお邪魔いたしました。

金箔細工の体験では、①箸に糊をつける②金箔を巻きつける③軽く綿で押し付けながら余分な金箔をはたいて落とすという工程で、見た目にも立派な金箔の箸ができあがることに驚きました。基本的には仏壇の金箔も同じ工程で貼られるのですが、仏壇には複雑な凹凸があるパーツも多いため、熟練を要することでした。

続いての工房見学では、仏壇の修理の様子を見せていただきました。富山県では『仏壇を洗う』といって仏壇のクリーニングを業者



に依頼することがありますが、こちら大越仏壇さんでは、虫食いのある部分を同じ木材を使った新しい部品と入れ替え、金具を一旦外して洗浄してから付け直し、漆も金箔も一度全てそぎ落として、新たに漆や金箔を貼り直す等、洗浄

ではなく本格的な修理をしているそうです。傷み具合によっては値段もかなり高くなってしまいうのですが、「先祖代々大事にしてきた仏壇だから」と、修理を依頼される方も多いそうです。

私たちは職業柄、普段から仏壇を見慣れているものですが、こういった現場に行って実際に見てみると、驚きや新たな発見があるものだと感じました。しかし何より驚いたのは、大越仏壇の建物内で定期的に行っているという法話会の存在でした。東西のお寺から講師をお招きし、毎回六十人〜九十人以上のお参りがあるそうです。

声掛けの方法としては、営業に回っているお宅にチラシを直接お届けして「来てくださいね。」とご案内をしているようですが、それだけのお参りがあるのは、やはり普段から信頼関係を築いておられるからこそではないでしょうか。

私たちも月参りという形で毎月のように顔を合わせているわけですが、果たしてそんな関係が築けているだろうか？ということと同時に、何がお寺の敷居を高くしてしまっているのかを改めて

考えなければならぬのではないかと思います。

浄土真宗青年僧侶 連絡協議会全国大会 IN北海道

扇 沢 是 真

浄土真宗青年僧侶連絡協議会全国大会IN北海道が二〇一二年七月四〜五日に開催されました。

「一般の人にもっと仏教に親しんでほしい」という思いから企画された「こころの寄り道 辻説法」に参加しました。

生憎のぐずついた天気の中でしたが約四〇〇人の人々が集まり、釈徹宗さんの司会の元、三人の僧侶の方々の日頃の活動や常々思うことを命題とした辻説法を聞ききました。

特に心に残ったのは、玄侑宗久師のお説法でありました。そのお言葉を抜粋させていただきます。

「へこんにちは」というのは日

本独特の挨拶ですね。〈今日（こんにち）〉は何なのか。〈今日は見つかるかもしれない〉なんです。昨日までとは違う一日でありたい、と言う祈りが込められているのです」

うちのお寺では土日・祝日もなりますと、ご門徒さんの法事が何件も重なるときがあります。

そんな多忙な折には、道で、または朝事でお会いしたご門徒さんへの挨拶はおざなりになってしまいう事が多々あります。

「忙しい」という字は心を亡くすと書くとはよく言いますが、本当に「忙しい、忙しい」と心を失った状態で、法事を勤めていたように思います。

そんな中で「今日（こんにち）」の大切さを改めて知ることができたように思います。



第十九回ダナー・バザー

青木哲隆

皆さんのご協力の下、九月九日に西本願寺高岡会館にて、第十九回ダナー・バザーを無事終えることができました。

当日は、天候にも恵まれまして会場の礼拝堂はものすごい熱気に包まれました。開始の



一時間前には、数十名のお客様が来られ、今か今かと開場を待っておられました。

今回は、収益金の一部を東日本大震災で被害にあわれた地域に支援金として送ることが第一回バザー実行委員会が決まりました。また、鸞翔会とお付き合いのある県内の

福祉作業所さんやJVC（日本国際ボランティアセンター）へも、収益金の一部をお送りさせていただきました。

今回は、来場いただいた方々に物品購入以外にも何か持ち帰ってもらおうというコンセプトから、

高岡教区や鸞翔会の東日本大震災の被災地での活動紹介や様子をパネル写真や文面で展示しました。

東日本大震災のパネル展示や写真にも足を止めて、じっくりご覧になっていかれる方もおられました

し、飯館村の「ありがとう いい たてタオル」も二本完売、急ぎよ設けました被災地への募金箱にも多くの支援をいただきました。

今回もバザーを準備する段階から片づけまで、多くの方の協力を得ました。委員長という立場で携

わらせていただいで、本当に一人

ひとりの力が合わさると、大きなものを動かせるのだということを実感しました。

しかし、時代や法事形態の変化（物品提供のご協力の面）から、ダナー・バザーも変化の必要性を感じます。これまでダナー・バザーを支えてくださった教区内寺院、バザーファンの皆さんや諸先輩方とともに次回もより良いものにしていきたいと思えます。

当日のうちに、打ち上げも盛大に終わりましたが翌日、教務所から電話が……。 「礼拝堂の障子がやぶれています。」と。

五名の会員で慣れない手つきで張り替えましたので、礼拝堂に入る際には、新しい障子をご覧下さい。

みなさん、どうも有難うございました。





蓮花の会

代表 富永 寿恵

今年度の蓮花の会では、第一回に料理教室を行い、第二回には寺族青年会が主催するダーナ・バザーに貢献できないかと考え、手作りにヘアアクセサリーを作り出品しました。当日のバザーでは、蓮花の会を代表する看板娘たちが接客したこともあってか、完売することができ、達成感や満足感を味わうことができました。

第三回には親睦会&勉強会を行いました。講師の先生には、現代人が考えているお寺の現実に触れ、危機感を感じつつも浄土真宗のみ教えに遇い、温かな気持ちになることができました。

お寺に携わる若い女性が集まって、親睦を深めつつ、自分の役割を認識し充実した生活を送れるよ

うな会になればと蓮花の会を進めてきました。会員の皆さまのご協力、ご指導のもと、楽しく責務を終えることができたことを心より感謝申し上げます。
また、近年、会員数が減少していることに悩んでおります。誰もが参加しやすく、のほほんとした会ですので、興味を持った方、そうでもない方、是非一度お声を掛けて下さい。お待ちしております！

手話サークル

代表 射水 梓

手話サークルでは昨年度に引き続き今年度も、ろう者劇団「おんによる座」の脇坂菊雄さんをご講師に迎え、年間を通して月に一回程度のペースで活動を行ってきました。

主な活動内容は相変わらず日常的な手話の語彙を増やす練習と、手話コーラスなどです。

今年度は、十二月一日に開催された教区のコラスグループ三十周年記念式典にお誘いいただき、皆さんの前で手話コーラスを披露する機会にも恵まれました。

当日は「娘たちよ」と「恩徳讃」の二曲を発表させていただきました。大勢の方の前に立ち大変緊張しましたが、その時のために皆で

目標をもって練習に取り組むことができ、大変良い経験になりました。

また、今年度も新しく練習を見に来て下さった方もおられたので、引き続き皆さんに手話に興味をもっていただけるよう、サークル員が増えるように考えながら皆で手話の勉強を続けて行ければ良いなあと思っています。

そして手話に少しでも興味を持たれた方はぜひお気軽に練習にご参加下さい。お待ちしております。

声明サークル

代表 岡田 覚

声明サークルでは、一年を通じて月二回程度のペースで声明の練習を行っています。

今年度も、七月の「井波別院特別永代経」へ向けての練習からスタートしました。今回は比較的馴染みのある『正信念仏偈作法 第二種』に、行道を加えた作法を勤めました。例年のごとく出勤メンバーが揃う回数は少なく、実際にフルメンバーが揃ったのは本番のみでしたが、なんとか問題なく行うことができました。

そして、十一月に高岡会館で行われた「親鸞聖人を語る夕べ」の音楽法要には、寺青OBを含む四

名が結衆として参加しました。こちらは昨年に引き続き『宗祖讃仰作法』の音楽法要を勤めました。通常の声明練習はリクエスト主体で、基礎から実践練習まで幅広く対応しております。来年度も様々なシーンに合わせて、声明サークルを活用していただけたらと思います。どうぞ気軽にご参加下さい。

フットサル

代表 宮村 昌也(寺青OB)

前回の全国大会で優勝したので、モチベーションがかなり高いです。連覇へ向けて月二回のペースで練習を行う予定です。練習後の懇親会も適度に行う予定です。運動の後の語りあいは、研修会とは違った良さがあります。参加者募集しております。

運動不足の方、体を動かす機会のない方、ぜひご参加下さい。



第二十五期収益事業

(法輪せんべい販売)

耳浦 康真

今年度の法輪せんべい販売は昨年度に引き続き、法輪せんべい一袋の収益(四十円)につき一割(四円)を東日本大震災復興支援金として出させていただきました。そして今年度は決算の結果、六万円弱となり、全額を高岡教区に支援活動協力金としてお渡ししました。法輪せんべいを購入いただいた皆様のおかげでこれだけの金額をお渡しできたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

法輪せんべい販売の全体の収支は近年に言えることですが、収入が少なく、東日本大震災の支援が大きくなってきたため支出が多くなり、活動が厳しくなってきました。しかし、それを理由に震災被災地支援の金額を減らしたり、最悪の場合やめってしまうということは、この法輪せんべいの販売している意味をなくすことであり、この「社会福祉と災害救援」の理念があるから購入してくださる皆さんを不快にさせる事にもなりますので、来年度からも続けられるように担当者や寺族青年会が協力して、これからの法輪せんべい販売を考えていくことが必要だと思います。



新入会員募集

高岡教区寺族青年会では随時新入会員を募集しています。

気軽に参加しませんか。





ホームページ

<http://www.ranshokai.jp>

ホームページ
随時更新中!!



発会三十周年記念報告集
「共に生きるいのちとは」
—私の中で動き出す
ハンセン病問題— 発売中
一冊、五〇〇円。
お問い合わせは高岡教区教務所
☎二二一〇八八七または
<http://www.ranshokai.jp>まで。

法輪せんべいのご案内

法輪せんべいは、当会が販売する法輪マークと法語が印された一袋二枚入りのおいしいせんべいです。ご法要のお供えにお茶受けやご贈答などに幅広くご利用いただけます。(※表示してある価格は、いずれも販売価格です。)



パッケージはサクラと若草色の二色です。



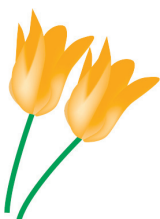
写真上は大箱（45袋入り）2,000円

品目	袋数	価格
特大	170	7,000円
大箱	45	2,000円
小箱	16	900円

お申し込み、お問い合わせは

〒933-0003 高岡市能町1298 本誓寺内

耳浦 康真まで ☎/FAX (0766) 23-9822



なまもろーど三十八号の発刊にあたり、会員の皆様には、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。とうございました。

二年間、広報部長を勤めさせていだいて、相変わらずパソコンに弱い自分が嫌になりました。なまもろーどの原稿依頼もいつも突然お願いし、大変ご迷惑をおかけしました。

四月からは、執行部も新しい体制に変わります。私はできませんでしたが、次期広報部長には、会報を通して少しでも会員が寺青行事に興味を持っていただけるようなものにしていただきたいと思えます。二年間ありがとうございました。

編集後記